

令和4年度地域相談支援フォーラム in 四国
～つながろう！働きたいを支えよう！みんなで取り組む就労支援～
活動実施報告書

記載者：大西明子・川中真紀

I. 企画概要

1. 企画名

令和4年度地域相談支援フォーラム in 四国
～つながろう！働きたいを支えよう！みんなで取り組む就労支援～

2. 主催

愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会

3. 後援

国立がん研究センター
愛媛県、愛媛県がん診療連携協議会、高知県、高知県がん診療連携協議会、
徳島県、徳島県がん診療連携協議会、香川県、香川県がん診療連携協議会

4. 目的

- ・がん患者の就労支援は相談員のみで完結できるものではなく、院内外との様々な連携が必要となる。がん患者の就労支援の現状や就労支援にかかわる専門施設の機能、各県での取り組みについて知り、相談員の役割や課題を考える。
- ・これらの意見交換を通して明日からの支援に活かす。

5. 協力(広報、運営実行委員、ファシリテーター)

香川県がん診療連携協議会、高知がん診療連携協議会、徳島県がん診療連携協議会

6. 開催日時

2022年10月22日(土)13:00～17:10 (受付 12:15～)

7. 開催方法

オンライン研修(Zoom)
(発信ホスト会場)四国がんセンター 患者・家族総合支援センター3階
愛媛県松山市南梅本町甲160番地 (TEL) 089-999-1209
(講師リモート会場)国立がん研究センター がん対策情報センター

8. 受講対象者(募集定員50名、受講者60名、欠席1名)

- ・四国を中心に全国の拠点病院・がん診療連携推進病院のがん相談支援センター相談員
- ・就労支援に関わる専門機関(産業保健総合支援センター、ハローワークの担当者、行政担当者)

【受講者60名の内訳】

(県別)愛媛県21(内、拠点病院13名、推進病院2名、その他6名)、香川・高知・徳島3県36名、四国圏外3名
(職種別)看護師15名、医療ソーシャルワーカー27名、臨床心理士3名、行政4名、
ハローワーク関係者6名、産業保健総合支援センター関係者5名

9. 参加条件

- ・ZOOMを用いたオンライン研修に参加でき、1人1台のデバイス機器(PC)が用意できる方
- ・安定したネットワーク接続環境が準備できる方
- ・研修に集中でき、グループディスカッションの参加に支障(顔や表情が映らない、発言の際の音声がかた聞こえない等)がないような静かな個室などの環境を準備するなど、オンライン受講における事前オリエンテーションを案内した。

10. 事前課題

なし。ただ、グループワークで使用する事例を事前に案内し、目を通していただくよう事前メールで案内した。

11. 事前・接続テスト

なし。特に希望もなかった。当日、講師、発表者で画面共有等操作に不安がある 3 名は直前打ち合わせ前に入室、操作確認を行った。受講者の中で、Zoomミーティングルームに入室前の名前を変更していないため待機室から入室許可をしてもよいのかどうか許可が出せなかったが、氏名(表示)の変更をチャットで依頼し対応できた。入室時に氏名を変更してから入室いただく工夫が必要と考える。

接続段階で参加者の方のマイクの不具合があった。参加者側の問題だったが、開始前に対応できた。又、GW 時にハウリングをおこしていた方もおり、GW に支障がでていた。対応として、機材を変更し雑音がおさまった。終始カメラが動作しない方もいたため、当日までに事前に必ずカメラとマイクのチェックをお願いする等の対策が必要と考えられる。

12. Ⅲ群登録

本研修は、国立がん研究センターが実施する「認定がん専門相談員制度」におけるⅢ群研修の単位認定申請を行い承認された。

13. 事務局スタッフ (6 名)

メイン会場: 済生会今治病院 松岡誠子(メインホスト)、四国がんセンター 福島美幸(司会)、篠原瞳(サブホスト)、安宅麻美弥(事務局事務)

リモート: 香川大学医学部附属病院 小田優子(共同ホスト、グループ巡回)

14. 受講証明書

愛媛県に協力を依頼し、ノベルティグッズ(袋等)を同封し参加者全員へ郵送した

15. 内容

〈学習目標〉

1. 就労支援におけるがん患者の現状や課題、がん専門相談員の役割を理解する。
2. ハローワーク、産業保健総合支援センターと病院との連携や、各県の就労支援の取り組みについて知る。
3. グループワークを通して相談員の役割、院内外の連携、個人・施設での取り組みについて考える。

〈プログラム〉

- 1) オリエンテーション(1) 13:00-13:15(15分)

開会あいさつ: 愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会長 灘野成人先生

- 2) 講義 13:15-14:20(65分:5分超過)

①「がん相談支援センターにおける就労支援の実際～院内活動や院外専門機関との連携より～」

聖路加国際病院 橋本久美子先生(35分)

②「ハローワークの役割と活動～病院との連携より～」

ハローワーク新居浜 真鍋幸子先生(15分)

③「産業保健総合支援センターの役割と活動～病院との連携より～」

愛媛産業保健総合支援センター 宮部真里先生(15分)

- 3) 四国 4 県の取り組み発表 14:20-14:56(36分:6分超過)

①徳島県: 就労相談窓口(がん相談支援センター)について、患者への周知・広報の工夫

徳島赤十字病院 高木隆司氏

②高知県: 産業保健総合支援センターとの連携

高知大学医学部附属病院 四國友理氏

③香川県: ハローワークとの連携事例

香川県立中央病院 七條有加里氏

④愛媛県: 就労支援が必要な患者さんを早期に拾い上げるための取り組み

四国がんセンター 大西明子氏

4) 休憩:おもてなし動画 14:56-15:06(10分)

住友別子病院 和田氏達で作成愛媛の観光名所(前半の講義・四国4県の取り組み発表で、予定より約10分超過。事前打ち合わせの通り、休憩は10分間確保し、グループワークを60分間から約50分間に変更。)

5) オリエンテーション(2) グループワークの事例提示、グループワークの流れの説明 15:06-15:16(10分)

6) アイスブレイク・グループワーク 15:16-16:21(アイスブレイク15分、グループワーク50分:10分短縮)

・各グループにファシリテーター、サブファシリテーターを配置し、司会進行はファシリテーターが行い、発表者はグループメンバーから選出した。ファシリテーターは、ファシリテーターマニュアルを用いて役割の統一を図った。

・緊張を緩和し、ディスカッションしやすい雰囲気を作るため、各グループ内で自己紹介・アイスブレイクを行ってから開始した。

・事例提示は、理解を助けるために書面と動画の両方を用いた。

・事例に対する支援や事例について感じたこと、また事例の内容にとらわれず日頃の就労支援業務や、講義や発表を聞いて感じたことなど、グループ内で意見交換を行った。

・1名当日欠席となり自由に巡回予定であった講師もグループワークに参加していただいた。

・運営3名が、各グループを巡回し、ネットワーク不良による退室やマイク不具合等の対応を行い大きなトラブルには至らなかった。

7) 休憩:おもてなし動画 16:21-16:30(9分:1分短縮)

愛媛県松山市作成の道後温泉、愛媛県作成の南予きずな博、東予編等 YouTube

8) 全体共有:各グループ発表と質疑応答 16:30-17:15(45分:15分超過)

・グループワーク、全体共有を通して、院内外の連携の視点も踏まえ、がん相談員・がん相談支援センターの役割と明日からできる就労支援の取り組みについて一人ひとりが考える機会とした。

・各グループ2分、1Gから順番に話し合ったことの発表を行った。

・概ね口頭のみでの発表だったが、9Gのうち2Gがwordを用いて全体共有しながら発表を行った。

【発表内容抜粋】

・事例について

身体の状態(副作用など)や、病気や治療についての理解、職場と話ができているかどうか(雇用状態、就業規則など)、働きたい理由、経済的な不安、相談しやすい人やキーパーソンなどを確認したい。

・相談員の役割について

まずは傾聴。一緒に情報を整理。それから必要な支援(機関)に繋げていく。必要な情報を見極めて提供する。/信頼関係を築いていく、安心して相談できる環境を作る。/職場との話し合いを勧める。/行動力があり、物事を確認できる強さがあるので、それを支えていく。/本人の気持ち、意向に寄り添っていく。/相談者自身が現状を理解できて、職場に伝えていくことを支援する。

・院内・院外連携について

相談支援センターだけで完結するのではなく、相談者のニーズを明確にしながら必要なところに繋いでいく必要がある。/日頃から連携しやすい体制作りができると良い。/医師や看護師と連携し、治療を上手く乗り切ることができるよう支援できるのではないかな。/職場にどう伝えていくか、他職種と連携して支援できると良い。/職場との調整について、産保センターやハローワークの協力を得ることができるかもしれない。

・個人/施設でできる明日からの取り組みについて

ルールのなかでできること、できないことはあるが、まずは相談に繋がること、仲間を増やすことが大切。
／就労支援について周知(パンフレットなどを利用)していくことが大事。／早期に就労支援が必要な人を
キャッチできるように、スタッフへの周知や教育も必要。

・その他

今回のフォーラム、グループワークで他施設参加者と知り合えたことは、連携の一つとなる。／ハローワーク
や産保センターの参加者より、新しい知識を得ることができた。

9) 閉会のあいさつ:愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門副部長 羽藤慎二先生 17:08-17:15
事務連絡

Web アンケート、修了証の案内 (約5分超過で17:15終了)

II. 四国4県スタッフ合同ワーキング直前打ち合わせ・振り返り会

1. 直前打ち合わせ(11:00~11:30)

全体の流れや変更点等について確認を行った。

- ・前半の講義・発表で時間超過した場合の対応については、グループワークで時間調整を行う。
- ・欠席者3名(7G…2名、4G…1名。講師の橋本先生が7Gに参加。)
- ・アイスブレイクの個人作業は省略
- ・グループワーク巡回スタッフの順路
- ・グループワーク中に巡回スタッフがいない場合のトラブルは、ヘルプボタンを利用する。
- ・グループワークの事例は架空であり、必要あれば対象者理解の視点も踏まえつつ、相談者自身が情報を整理・理解し、情報支援を通して院内外の連携に繋がっていくと良い。

2. 振り返り会(17:20~18:00)

- ・企業としては元の状態に戻って働いてほしいという思いだが、どんな病気でも後遺症などのため完全に元の状態というのは難しい。それを企業に理解してもらう必要がある。勉強会などの機会を設ける、病院から発信して
労務担当者等に働きかけていくなど、様々な取り組みから就労支援を広げていかないと難しいように思う。
- ・現状として就労支援を積極的に取り組んでいる施設は少ない印象であった。今後仕事と治療の両立が当たり
前になってくる社会に向けて、就労支援を行っていくことの大切さを共通認識したように思う。
- ・グループワークでは活発で幅広い意見交換ができた。
- ・PCの不具合でカメラが映らず音声のみでの参加者が1名いた。見えないので意見を求めにくかった。
- ・グループメンバーにハローワークや産保センターの参加者がいたため、専門機関だからこそその気づき・視点に
よる意見や、実際の取り組みについて聞くことができ、とても学びとなった。
- ・グループワーク中にファシリが一時落ちてしまったが、サブファシリがフォローして進めることができた。
- ・がん相談員が専門機関と連携する時に、医療的な情報を前もって伝えることで連携がとりやすくなると思う。医
療的な情報をよく理解した上で橋渡しをすることが必要だと感じた。
- ・グループワーク開始当初、ファシリが入室しないトラブルがあり、サブファシリが代行した。
- ・運営上、大きなトラブルはなく終了することができた。
- ・前半の講義では、真似して出来そうな取り組みもあり参考になった。
- ・今回のような専門機関の方とがん相談員とのディスカッションが、県の部会でも行えると良いと感じた。
- ・就労がテーマではあったが、前提にある対象者理解や基本姿勢の大切さについても話し合いグループワーク

を終えることができた。

- ・就労支援の経験が少ない参加者が多かったが、様々な角度から意見が上がることで事例にできる支援を考えることができた。情報支援、状況を理解するといった基本姿勢の大切さを改めて感じた。

Ⅲ. アンケート集計結果

別紙参照

Ⅳ. 今後の展望

四国 4 県からの参加を中心に受講者、実行委員等を合わせ 85 名(運営事務スタッフ 2 名、オブザーバー:後援名義協力の国立がん研究センターより 1 名を含めると 88 名)と多くの参加があった。

医療ソーシャルワーカー、看護師、心理士その他、ハローワーク、産業保健総合支援センター、行政担当者など幅広い職種、機関から参加があり、フォーラムならではの多様な意見交換をすることができた。

事後アンケートでもグループワークについての好意的な意見が複数あり、多職種・多機関でのグループワークのニーズは高いと思われる。

また殆どの参加者がオンラインによるグループワークの経験があり、大きなトラブルはなかった。ファシリテーターのオンライン脱落、入室の遅れなどのトラブルはあったものの、サブファシリテーターのフォローにより進行は継続できており、事前打ち合わせ、役割分担の重要性を再認識することができた。今後も綿密な打ち合わせによりオンライン研修のスムーズな運営が可能になるものと思われる。

今回、オンライン開催ならではの大規模なフォーラムが実現できたが、集合型でのニーズも変わらずあり、内容に応じて開催形式を選択または併用していくことが望ましい。